

○麻布大学獣医学部における生体を利用する実習に対する考え方

麻布大学では建学の精神である「学理の討究と誠実なる実践」に基づき、人と動物との共存及び、人と自然環境との調和の途を探求することを目的として獣医学、動物応用科学に関する専門の知識を教授研究しています。

獣医学部には獣医学ならびに動物応用科学の専門家となるために必要とされる、種々の科目があります。「誠実なる実践」の「実践」としての教育効果を得るためには、どうしても生体を用いることがあります。すなわち、私たちヒトも生物である以上、他の動物種のことをより深く知るためには感覚機能から得る情報が必要です。骨格系の異なる各動物種の動き方を視覚で、種々の生理現象や行動に伴う発声を聴覚で、各動物種固有の匂い、体液が発する匂い、健康状態を損なったときの匂いを嗅覚で、毛や体の柔軟性、重量感などの体感を触覚で、これら動物そのものを知るための実体験がないと、「実践」に繋げることはできません。

一方で私たちは、命の尊さを理解した上で、生体を用いる教育を行うべきだと考えています。「誠実なる実践」の「誠実」の部分にあたります。動物福祉へ細心の注意を払うとともに動物実験の倫理の原則である、代替法の考慮、使用動物数の削減、動物の苦痛軽減への十分な配慮を行った上で、生体を用いる実習を行います。先ず、命の犠牲を払わずに行える代替法を用いる教育を積極的に選択します。その上で、代替法は現存しない、または現状の代替ツールでは十分な教育効果が得られないことが明確な場合は、生体を用いる教育に臨みます。これらについては、動物実験委員会によって慎重に議論され、認められた内容の実習が行われます。

以上のような取り組みによって、生体を用いる実習における「誠実なる実践」を実現しています。

○麻布大学獣医学部における動物福祉および動物倫理等の教育について

麻布大学の教育においては、講義科目の中で、5F (5つの Freedom (自由))、3R (3つの R: Replacement (代替法の利用)、Reduction (使用数の削減)、Refinement (実験の洗練))の理念、法令等に基づく枠組みを学びます。そして生体を用いる実習科目の中で、教員が事前に目標とする教育到達点と現存の代替教育を解説、その実習が生体を用いなければ目標の成果が得られないことを説明の上、学生が実習を行います。

また、卒業論文の作成にあたって、生体から成果を得る場合には、該当の研究室の教員から5F、3Rの理念、法令等に基づく枠組みを学びます。また、動物実験委員会による教育訓練の受講が義務づけられています。